

都市整備委員会で尾根幹線問題を問う！

南多摩尾根幹事業スタート



南多摩尾根幹線は、調布市の多摩川原橋を起点として、稲城市、多摩市、八王子市、町田市の町田街道をつなぐ全長16.6km、幅員標準43m最大58mの多摩ニュータウンを貫く幹線道路です。昭和40年(1965年)に多摩ニュータウンの都市計画が決定され、それに伴い昭和44年(1969年)に南多摩尾根幹線も都市計画決定され、当初は掘り割りとか平面交差とか形式については、特に決まっていませんでした。その後多摩ニュータウンの入居が昭和46年(1971年)から始まり、昭和54年(1979年)には工事用道路を一般道として開通させました。更に道路整備を進める話し合いを地元住民の皆さんと進めてきましたが、騒音や排ガス、振動問題など住環境が悪化することから、反対運動などが活発化し、事業は進みませんでした。その後沿道の環境への影響を配慮して、尾根幹線の構造を、掘り割りとする都市計画変更を平成3年10月(1991年)に行いました。このことで唐木田から稲城市百村までの区間を全て、掘り割りとトンネルでつなげることとなりました。

平成19年4月多摩川原橋から町田街道まで、暫定2車線で交通開放しました。その後私も、都市整備委員会で尾根幹線の早期整備を訴えてきており、多摩市議会からも尾根幹線の早期整備の要望がなされました。そして舛添知事の策定した東京都長期ビジョンにも多摩ニュータウンの再生のためにも、尾根幹線の整備を推進することが位置付けられました。



多摩市コロシアムの説明会・市民で満席

都市計画変更一掘り割りから平面交差へ

本年突如、尾根幹線の整備方針が東京都から示されました。それによると「渋滞の緩和や広域的幹線道路の機能を確保するために、全線4車線とすること。沿道のアクセスや街づくりとの一体性などから、平面構造とする。現在の道路用地を活用し、沿道環境に配慮した道路形態とすること。多摩市・及び稲城市の市境付近はトンネル構造とし、環境保全地域に配慮したルートの検討を行う。」という4つの基本指針が示されました。この中で最大の変更要因は、掘り割りを平面交差とするという点です。



稲城市内掘り割例

平面交差は環境対策の後退か!?

多摩・稲城市民への説明会は、2月27日から始まりました。その中で南野や鶴牧の多摩市民の方から、「平成3年(1991年)掘り割構造で蓋かけをする案で、住民側としては意見がまとまり要望が出されたはず。」「一方的に掘り割構造から撤退するのはおかしい!」という意見が相次いで出されました。また「騒音、排ガス、振動等の環境対策として平面交差は後退ではないか?」との意見が稲城でも出されました。私も3月18日の都市整備委員会でこの点を正しましたが、「平成13年に都の行政評価があり平成18年の整備形態等について検討路線となっており、見直しを行った。」との答弁で、環境に対する影響について明確な答えを得ることはできませんでした。工事費が安く済むこと、早期に完成させることが主眼となった都市計画の変更と言わざるを得ません。しかし都市計画変更の手続きのために環境アセスメントも必要となり、それだけでも、最低3年から5年の時間がかかってしまい、しかも住民と余計な軋轢を持つことになると、かえって完成まで時間がかかってしまう懸念があります。今後も議会で質していきたいと思えます。



鶴牧・南野現況

3月7日中央環状線全線開通

新宿～羽田空港間が20分に!

40%の
渋滞緩和
実現



首都圏では、現在3つの環状道路の工事が行われてきました。中央環状線、外環道、圏央道でそのうち一番内側を走っている、中央環状線の未開通の大橋ジャンクションと大井ジャンクション間約9.4kmが3月7日16時開通しました。中央環状線は、延長47キロメートルで渋谷・新宿・池袋などの副都心と羽田空港や東京港などを結ぶ機能を担っており、今回の全線開通で新宿から羽田空港まで40分かかったものを、20分に短縮することができるようになります。また今回の全線開通で、中央環状線内の車の乗り入れを5%削減することができ、結果として40%の渋滞の緩和につながるということです。体感的には、金曜の渋滞状況が土曜日並みになるという事です。また東京港や川崎港、横浜港などで扱われる国際標準コンテナを積載していたトラックは、一般道を今まで利用して東名や中央高速を利用してまいりました。しかし中央環状線を利用することができるようになり、効率的な物流ネットワーク化が図られ、国際競争力の強化に結びつくことになるとのことです。

当日午前中に記念式典が行われ、舛添東京都知事は勿論の事、太田昭宏国土交通大臣や地元国会議員、都議会都市整備委員会委員として私も参加致しました。天井崩落事故などの教訓も生かされ、天井はすっきりとアーチを描いていました。

東京で初めて中央高速スマートインター開通



前号の都議会報告でも掲載しましたが、府中市の中央自動車道に「府中スマートインターチェンジ」が中央環状道路の開通と同じく、3月7日15時に開通しました。ETC専用のスマートインターの開通は、東京都では初めての事となります。ハーフインターであった稲城大橋も、1キロメートル程離れてはいますが、フルインター並みの利用が可能になります。稲城市や多摩市の東部地域、川崎市の人たちも十分利用できます。インターチェンジ周辺の住民から反対の訴訟も起こされていますが、府中市が理解をいただけるように話し合いを進めていくことになっています。

平尾サービス付き高齢者住宅28年暮れ募集開始



平尾サービス付き高齢者住宅予定地



コーシャハイム千歳鳥山
Kosha Heim Chitose-karasuyama
サービス付き高齢者向け住宅

平尾地区の住宅供給会社の下水処理施設跡地に建設予定の、平尾住宅サービス付き高齢者向け住宅計画が、本決まりとなりました。本号第3号で「平成28年4月オープンの予定で、居室50部屋」という事等を紹介しましたが、平尾地域の自治会をはじめ住民の皆さんと綿密な話し合いを行ってきました。その結果、以下のように計画内容が変更となりました。まず開設時期が29年4月となり一年ずれることになりました。ですから着工は本年10月頃となり、募集は平成28年の暮れになる予定で、稲城市民優先枠が確保されました。運営事業者は前回公表した、住宅募集管理は東京建物不動産販売(株)、介護事業は(株)やさしい手、医療事業は医療法人財団天翁会で、建設会社は本年夏頃に決定することになっています。

- 住宅戸数が50戸から63戸に増え、20㎡の部屋が13戸追加されたこと
- 家賃設定も20㎡タイプで管理費やサービス費も含めて11万9千円程度と、低く抑えられたこと
- 稲城市民優先募集期間を設定し、戸数は応募状況を見て決定することと、抽せんにより最終決定すること

右の写真は千歳鳥山のサービス付き高齢者向け住宅「コーシャハイム千歳鳥山」で、平尾より大き目となります。来年秋の稲城市の広報等をしっかりご覧いただき、応募漏れの無いようにお願いします。